



岡田半江「春曉起霧圖」1841年 遠山記念館蔵 重要文化財 (展示期間) 9月23日、9月26日、10月12日、11月6日



岡田米山人
(自画像) 部分
個人蔵

開館40周年記念

2022年
9月23日 (金・祝)
〜
11月6日 (日)

46年ぶりに、まとめて公開!



岡田米山人《虎図》部分 1818年 個人蔵

岡田米山人

と半江

Okada Beisanjin and Hankō

休館日=毎週月曜日(ただし10月10日は開館)、10月11日(火)
開館時間=午前9時30分〜午後5時(入館は午後4時30分まで)
観覧料=一般1,000(800)円、学生800(600円)、高校生以下無料
()内は、前売および20名以上の団体割引料金
*この料金で、「特展展示 生涯100年 充永定正展」(2022年9月6日[火]〜12月11日[日])、常設展示「美術館のコレクション」も観覧できる場合があります。
*生徒・学生の方は生徒手帳・学生証等をご提示ください。
*障害者手帳等(アプリ含む)をお持ちの方および付き添いの方1名は観覧無料。
*市内小学校(小・中・高・特支)および福祉施設が来館する場合は、引率も観覧料(要申請)。
*毎月第3日曜日の「家庭の日」(10月16日)は団体割引料金で観覧いただけます。
*主な前売券販売場所: ネットぴあ、ファミリーマート、セブンイレブン他

主催=三重県立美術館
助成=芸術文化振興基金助成事業
公益財団法人三重県立美術館協力会

協賛=井村屋グループ 岡三証券株式会社 株式会社三十三銀行
中部電力パワーグリッド株式会社 日本トランスシティ株式会社
株式会社百五銀行 三重交通グループホールディングス株式会社
有限会社和田金
桑名三重信用金庫/北伊勢上野信用金庫/津信用金庫/紀北信用金庫
協力=近畿日本鉄道株式会社
特別協力=大阪歴史博物館



岡田米山人《青緑山水図》1819年 大阪美術館蔵

40

三重県立美術館

MIE PREFECTURAL ART MUSEUM

開館 40 周年記念 岡田米山人と半江 展

三重県立美術館の開館 40 周年記念第三弾として、岡田米山人と半江展を開催します。三重県にゆかりの深い江戸時代後期の代表的な文人画家・岡田米山人（おかだ べいさんじん、1744-1820）とその子である半江（はんこう、1782-1846）のおよそ半世紀ぶりとなる展覧会です。

展覧会では、作品、資料あわせて 94 点を展示。重要文化財 1 点、重要美術品 2 点に加え、展覧会初出品、三重県初公開となる作品も数多くご紹介します。三重県・東海初、全国でもおよそ 50 年ぶりとなる米山人と半江展をぜひお見逃しなく。

※会期中、一部展示替えをおこないます。

※掲載内容に変更が生じる場合があります。最新の情報は当館ウェブサイトをご覧ください。

展覧会概要

会 期：2022 年 9 月 23 日(金・祝)から 11 月 6 日(日)まで

開館時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時(入館は午後 4 時 30 分まで)

休 館 日：毎週月曜日(10 月 10 日は開館)、10 月 11 日(火)

主 催：三重県立美術館

助 成：芸術文化振興基金助成事業、公益財団法人三重県立美術館協力会

協 賛：井村屋グループ、岡三証券株式会社、株式会社三十三銀行

中部電力パワーグリッド株式会社、日本トランスシティ株式会社

株式会社百五銀行、三重交通グループホールディングス株式会社

有限会社和田金、桑名三重信用金庫／北伊勢上野信用金庫／

津信用金庫／紀北信用金庫

協 力：近畿日本鉄道株式会社

特別協力：大阪歴史博物館

観 覧 料：一般 1,000 (800) 円 学生 800 (600) 円 高校生以下無料

* () 内は前売および 20 名以上の団体割引料金

* この料金で、「美術館のコレクション」、柳原義達記念館もご覧いただけます。

* 生徒・学生の方は生徒手帳・学生証等をご提示ください。

* 障害者手帳等(アプリも含む)をお持ちの方が観覧する場合、付き添いの方 1 名も観覧無料。

- *県内学校(小・中・高・特支)等が来館する場合、引率者も観覧無料(要申請)。
- *毎月第3日曜の「家庭の日」(10月16日)は団体割引料金でご覧いただけます。
- *主な前売券発売所:チケットぴあ、ファミリーマート、セブン-イレブン他

米山人と半江の魅力・展覧会のみどころ

1. 謎の多き父子に迫る！三重県初の大展覧会

米山人と半江は、謎多き父子。出生地さえ諸説ある状況です。江戸時代後期の文人画家として高く評価されながらも、これまで開催された展覧会が極端に少ないのは、その経歴に不明な点が多いことも無関係ではありません。開催された展覧会は1941年と1976年のわずか2回。三重県では今回がはじめてとなる大規模な展覧会です。

2. 本業は米屋！米山人と半江のこだわりとは？

米山人は、米屋を生業としていたため、「米」の字が入った「米山人」を名乗りました。息子の半江も、若い頃は「小米(しょうべい)」と名乗っています。ふたりは、画家として有名になった後も米屋を続けています。米屋でありながら、趣味で絵を描くことに強いこだわりを持っていました。

3. 二足のわらじ、米屋と役人

大坂で生活し、米屋を営んでいた米山人と半江ですが、津藩にも仕えていました。大坂の蔵屋敷に住み込みで働いていたことがわかっています。休みの日には友人たちを招き、ともに作品を描きました。米屋であり、津藩役人でもあった父子は、津藩の仕事を辞した後、60代、70代に多くの作品を描いています。

4. 父は豪快、息子は繊細、ふたりの共通点は？

米山人と半江は、父子ともに独学で絵を学びました。米山人は構図も筆遣いも大胆。大らかで力強い作品が多くあります。半江は父から絵を学びましたが、繊細な作品をのこしています。一方で、商人あるいは役人として都会の喧騒に身をおきなが

ら、心は自由であろうとした点は共通しています。ふたりは絵を生業としていたわけではありません。友人知人とよく遊び、心のおもむくままに筆を執り、独自の境地を開いた父子なのです。

5. 津藩との関係を示す貴重な作品

三重県立美術館開館 40 周年を記念して開催する今回の展覧会では、津藩とのかかわりを特に重視しています。注目は、津藩ゆかりの大阪・常光寺に伝わった屏風と襖絵。大坂夏の陣で命を落とした藤堂家家臣の供養のために、米山人と半江が手掛けた重要な作品です。

会期中のイベント

※手話通訳・要約筆記が必要な方は事前にご相談ください。

(1) 記念講演会「文人画をたのしむ—岡田米山人の〈自娛〉の世界—」

講師:松浦清(まつうら きよし)(大阪工業大学教授 常翔歴史館館長)

日時:10月23日(日)午後2時から ※約90分

会場:三重県立美術館講堂

定員:70名

聴講無料・要事前申込(申込締切 10月10日(月・祝))

申込方法

事前申込が必要です。下記いずれかの方法でお申込みください。申込多数の場合は抽選し、締切後に結果をお知らせします。

① 当館ウェブサイトの専用フォーム

② 往復はがき:往信用文面に参加者の氏名(1枚につき2名まで)、当日連絡先(電話・メールアドレス)、返信用宛名面に住所と氏名を記入し、当館「岡田米山人と半江展イベント係」まで送付。

(2) 担当学芸員によるスライド・レクチャー

日時：10月15日(土)午後2時から ※約40分

会場：三重県立美術館講堂

定員：70名

聴講無料・申込不要 ※開場・受付は午後1時30分から

広報文(約200文字) *紙面作成時、ご自由にお使いください。

岡田米山人(べいさんじん、1744—1820)とその子岡田半江(はんこう、1782—1846)は、江戸時代の後期、大坂(現:大阪)を舞台に活動した文人画家。父子は、米穀商を営むかわら、独力で書画を学びました。豪快な父に対し、子は繊細で鋭い作風。伊勢国津藩がその才能を認め、藩の役人に採用したほどで、三重県にゆかりの深い画家といえます。本展は、三重県初、日本国内においてもおよそ半世紀ぶりとなる米山人と半江の展覧会です。

広報用画像のご提供について

下記の画像を広報用に提供します。

ご希望の方は、注意事項をお読みの上、下記連絡先に希望の画像番号をお知らせください。Eメールにて画像をお送りします。

■掲載にあたってのお願い

- ・各画像下のキャプション(作品名、所蔵者名)を画像と一緒に掲載してください。
- ・作品画像への文字乗せ、画像トリミングはご遠慮ください。
- ・掲載物を1部、または紙面データを美術館にお送りください。
- ・ウェブサイト上に掲載する場合はコピーガードをかけ、転載禁止の旨を明記してください。
- ・画像データの広報目的以外の使用はできません。

■お問い合わせ

三重県立美術館 学芸普及課 村上、道田、内藤

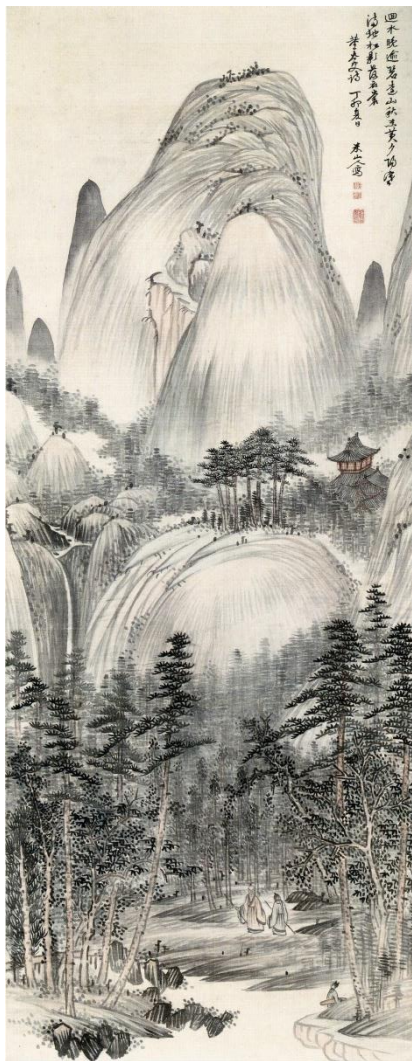
TEL:059-227-2100(代表) / FAX.:059-223-0570

Eメール:bijutsu2@pref.mie.lg.jp

〒514-0007 津市大谷町11

<https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/>

Follow us on Twitter @mie_kenbi



① 岡田米山人《秋山蕭寺圖》
1807年 個人蔵 重要美術品



② 岡田米山人《自画像》
制作年不詳 個人蔵



③ 岡田米山人《梅図》 1814年 初日山常光寺蔵



④ 岡田米山人《青緑山水図》
1819年
公益財団法人大原美術館蔵



⑤ 岡田半江《柳暗花明図》
制作年不詳
個人蔵



⑥ 岡田半江《春靄起鴉図》
1841年
公益財団法人遠山記念館蔵
重要文化財
展示期間：9月23-25日
及び10月12日-11月6日



⑦ 岡田半江《秋山歸樵図》
制作年不詳
個人蔵